ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学　経営情報学部 ビジネスデザイン学科
高藤　清美

教育の責任

情報科学分野の基礎的な科目（情報デザイン入門／情報デザイン入門 A（1 年次選択 2 単位）、情報基礎 A（1 年次必修 2 単位））、情報科学分野の専門的な科目（組込コンピューティング（2～4 年次選択 2 単位）、IoT 技術／デバイスコントロール 1,2／フィジカルコンピューティング 1,2（2～4 年次各 2 単位）、ウェアラブルコンピューティング（2～4 年次選択 2 単位オムニバス 1/2 担当）、情報活用と危機管理（2～4 年次選択 2 単位オムニバス 1/3 担当）、プログラミング B／プログラミング（C 言語）（2～4 年次選択 4 単位）、ビジュアライジングプログラミング（2～4 年次選択 2 単位）、実務プログラミング（2～4 年次選択 4 単位））、情報科学分野の応用的な科目（専門演習ゼミ 1／情報デザイン演習 D1,2／情報デザイン演習 D1,2（IoT システムのデザイン）（3 年次選択各 2 単位）、卒業研究（4 年次必修 4 単位））、キャリア形成に関わる科目（情報と職業（1 年次選択 2 単位））を担当している。以上に加え、教員免許（高等学校・情報科）を出臆するために必要な科目（情報と職業（1 年次）、事前事後指導（4 年次）、教育実習（4 年次）、教職実践演習（4 年次））を担当している。

科目名	対象学年	受講人数※	授業形態	必修選択	科目区分（カリキュラムにおける位置づけ）
情報・デザイン入門 A 情報デザイン入門	1	27	講義	選択	入門科目群
情報基礎 A	1	26	講義・演習	必修	入門科目群
情報と職業	1	9	講義	選択	進路支援科目群　キャリア形成科目
情報活用と危機管理	2～4	21	講義・演習	選択	専門基礎科目群　コース科目（情報デザイン）
組込コンピューティング	2～4	2	講義・演習	選択	専門基礎科目群　コース科目（情報デザイン）
IoT 技術 デバイスコントロール1 フィジカルコンピューティング 1	2～4	37	講義・演習	選択	専門基礎科目群　コース科目（情報デザイン）
デバイスコントロール2 フィジカルコンピューティング 2	2～4	13	講義・演習	選択	専門基礎科目群　コース科目（情報デザイン）
ウェアラブルコンピューティング	2～4	15	講義・演習	選択	専門基礎科目群　コース科目（情報デザイン）
プログラミング B プログラミング（C 言語）	2～4	22	講義・演習	選択	専門基礎科目群　コース科目（情報デザイン）
ビジュアライジングプログラミング	2～4	2	講義・演習	選択	専門基礎科目群　コース科目（情報デザイン）
実務プログラミング	2～4	3	講義・演習	選択	専門基礎科目群　コース科目（情報デザイン）
専門演習ゼミ 1（前期） 情報デザイン演習 D1	3	21	講義・演習	選択	専門発展科目群　コース科目（情報デザイン）

科目名	対象学年	受講人数※	授業形態	必修選択	科目区分（カリキュラムにおける位置づけ）
専門演習ゼミ 1（後期） 情報デザイン演習 D2	3	14	講義・演習	選択	専門発展科目群 コース科目（情報デザイン）
卒業研究	4	11	演習	選択	専門発展科目群 卒業研究
事前事後指導	4	3	演習	選択	教員免許のための科目
教育実習	4	3	演習	選択	教員免許のための科目
教職実践演習	4	3	演習	選択	教員免許のための科目

教育の理念

情報科学分野の基礎的な科目については、日夜進歩を続けるコンピュータや情報活用に関わる分野における根本となる知識や技術の理解を深めることを目標としている。この分野の根本となる知識や技術を理解することで、長きに渡る職業人生の中で新しい知識や技術を自らが学ぶことのできる素養を身に着けさせる。情報科学分野の専門的な科目においては、コンピュータという機械を理解し、実生活の中で役に立つ道具とするために必要なハードウェアの基本的な知識、ソフトウェアの構築に必要な知識や技能の修得を目指す。特にインダストリー4.0 や Society5.0 で必須となる IoT に対する知識や技能の獲得を目指す。キャリア形成に関わる科目では、働くことの意味を理解し、豊かな職業生活を営むために、職と関連した社会の基本的な制度や仕組み、職業生活で取るべき考え方や態度などを、事例を通して知り、これを基に常に考察をするという態度を身に着ける。

教育の方法

担当する情報科学分野の授業科目における基本的な知識や技術については確実に修得することを目指し、演習課題等も基礎的な問題の量を多めにしている。ある程度、知識や技術の修得が進んだ段階では、十分に考えることが必要な課題の量を多めにする。キャリア形成に関わる科目については、授業で扱った内容に関連して、自分で調べたり、しっかりと考えることの必要な課題を多くすることで、常に考えるという態度を積極的に育成するようにしている。

教育の成果 および 今後の目標

「授業改善計画報告書」に示しました。

参考資料

・各授業で使用している資料プリント、課題プリント（非公開）
・各授業で使用しているオンライン資料（非公開）
・組込みコンピューティングの授業プリント（非公開、今後公開する予定）

（2023-07-22　記述）